2019年4月1日

2019年度・公式規則変更予定報

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会競技規則委員会では、現在2019年秋季公式戦から適用される公式規則の変更作業を実施中です。

この「2019年度・公式規則変更予定報」は、本年の公式規則変更を予定している主要項目に関して概要を説明したものであり、各競技団体の早めの対応を可能にするために発行するものです。本予定報に記載している内容は、今後の作業で追加や変更の可能性があるものです。*正式には本年7月上旬に発表予定の「2019年度・公式規則変更内容・決定報」で公示いたします。

注*: 当委員会は、NCAA（全米大学体育協会）の競技規則変更内容をベースに変更作業をしています。NCAA では、4 月中旬に規則変更内容が決定され、その後 5 月下旬の競技規則書発行時に、編集上の変更項目が織り込まれます。本予定報は現時点の情報をもとに、競技規則委員会で決定されたものです。決定報では、5 月下旬の NCAA の競技規則書を反映したものを公示いたします。

2019年度・公式規則変更予定主要項目

2019年度の公式規則変更として予定している主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の（ ）内の英数字は、この変更が行われる予定の公式規則の主たる「篇－章－条」を表します。

（1） 超過節の規定の変更

☆ 従来、超過節（両チームそれぞれ 1 回のポゼッション シリーズ）は、試合の勝者が決定されるまで、25 ヤード ライン上から繰り返された。3 回目の超過節の始まりからは、タッチダウンを得点したチームは 2 点のトライを行わなければならなかった。

★ 本年より、4 回目までの超過節は、従来通り 25 ヤード ライン上が開始され、5 回目以降の超過節は、3 ヤード ライン上からの 2 点のトライのみを行う。従来と同様、3 回目、4 回目の超過節において、タッチダウンを得点したチームは 2 点のトライを行わなければならない。なお、2 回目および 4 回目の超過節終了後は 2 分間のレフリー タイムアウトをとることが新たに規定された。 （3-1-3 変更）

（2） フリー キック ダウンにおける不正なウェッジ フォーメーションの規定の変更

☆ 従来、フリー キック ダウンにおいて、ボールがキックされた後、3 人以上のレシーブ チームのメンバーがボール キャリアを守るためにブロックする目的で故意にウェッジを形成することが、不正なウェッジ フォーメーションの反則であった。

★本年より、2 人のレシーブ チームのメンバーの場合も、上記と同様に故意にウェッジを形成することは、不正なウェッジ フォーメーションの反則となる。 （6-1-10 変更）

（3） ターゲティングの反則に対する罰則の厳罰化

☆ 従来、試合前半にターゲティングの反則を犯したプレーヤーは、その試合の残りの資格が没収され、試合後半に反則を犯したプレーヤーは，その試合の残りと次の試合の前半の資格が没収された。

★ 本年より、上記に加え、同一プレーヤーが同一シーズンに2回目およびそれ以降のターゲティングの反則を犯した場合には、その試合の残りとそのチームが行う次の試合が出場停止となる。

（9-1-3 および 4 追加）

（4） ブラインド サイド ブロック（死角からのブロック）の反則の追加

☆ 従来、腰より下へのブロック、クリッピングあるいは背後への不正なブロックを除き、相手の死角からのブロックは、無防備なプレーヤーの首または頭部に対するターゲティングに該当する場合に反則であった。

★ 本年より、相手の死角からの強力な接触を伴うブロックは、パーソナル ファウルとなる。その接触が、公式規則 9-1-4 に該当する場合は、ターゲティングの反則を伴うパーソナル ファウルとなる。

（9-1-X* 追加） （注*：条文番号未定）

（5） ターゲティングの反則に対するインスタント リプレーの規定の変更

☆ 従来、インスタント リプレーは、フィールド上での決定を、ビデオを用いることによって確認する（コンファーム），変更する（リバース），あるいはフィールド上の判定のままとする（スタンド）ことができた。

★ 本年より、フィールド上のターゲティングに対するインスタント リプレーの決定は、ビデオを用いることによって確認する（コンファーム）、あるいは変更する（リバース）のみとなる。他のフィールド上の判定に対するインスタント リプレーについては従来のままである。 （12-1-1, 2 および 12-3-5 変更）

以上